

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391400068		
法人名	社会福祉法人 順和会		
事業所名	グループホーム ひのおか由紀の里 杵島岳ユニット		
所在地	熊本県阿蘇市赤水無田ノ上1894番地1		
自己評価作成日	令和2年1月15日	評価結果市町村受理日	令和2年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

鉄鉱石の鉱山があったことから「赤水」という地名がつけられたこの地にグループホーム由紀の里は立地しております。阿蘇五岳を展望する閑静な環境で、建物周辺には田畑があり田植えや稲刈りなどの風景を間近で見ることができたり、用水路には魚が泳いでいたりと自然に囲まれた住みよい環境です。医療面に関しては近隣に協力医療機関があり、普段の健康管理や緊急時の体制など柔軟な対応ができる環境です。開設より9年目を迎え、入居者の方も加齢などにより身体的な機能も低下しておりますが、入居者の皆さんの状態を把握しながら、その人に必要とされる支援に努めております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

阿蘇五岳を望む環境の中、開設して9年を迎えたホームは、職員の日々の手入れにより清潔に管理され、草花や壁面をはじめ季節感のある環境と、入居者に居心地の良い時間を提供している。更に職員自身が語るように職員間のチームワークの良さは、自ずと笑顔での支援となり家族をはじめとして来訪者にとっても信頼につながるものである。施設長(所長)をはじめ、双方の管理者は互いのユニットの垣根を超え、ホームにできる最良の支援に力を発揮できる職場環境に努めており、今回の外部評価についても日々の業務に真摯に取り組まれたことが書類上からも窺い知ることが出来た。花を飾ることを得意とする職員、寄り添い傾聴しながら力仕事にも積極的に努める職員、縫物を得意とする職員は、インフルエンザなどの感染症で不足するマスクの緊急時に備え、職員の分だけでも手作りで備えておけないかと準備を進めるなど、アイデアと実行力を惜しみなく注いでいる。今後も変わらぬ支援の継続が大いに期待されるホームである。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和2年2月5日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時にスタッフで作り上げた理念をもとに、日々の生活支援の指針としている。	理念「ぬくもりと安心の里」には家庭的な日常や笑顔のある暮らし、入居者一人ひとりへの尊重と地域交流の重要性が網羅されており、法人と一体となって地域福祉の邁進に寄与し、拠り所となる事業所運営を進めている。新年を迎えた1月には、あらためて理念に特化した勉強会を行い、内容を掘り下げて共有することで、職員の中にはより身近になったとの声があがっている。	管理者は今後も理念について振り返りの機会を持ちたいとしており、運営推進会議などで今回の取組を発信することで、地域に対してホームの姿勢がより明確になるものと思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設以来、毎年恒例になってきている地域行事やボランティアの来館もあり交流を通して関係づくりに努めている。又、入居後も関係性の継続の機会をつくっている。	各ボランティア(大正琴・ギター演奏・フラダンスなど)の来所は継続されており、法人行事として特養入居者との交流の機会でもある。保育園児との七夕交流、地元神社の祭りでも子ども神輿や飾り馬を見学するなど、入居者には馴染みの行事である。地域代表者からの情報提供により、どんどやへも参加しており、地域資源を活用した外出で人々との交流の機会が持たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や広報により、取り組みや活動、役割の説明を行うことや実習生の受け入れにより、認知症ケアの実践や考え方を通して人材育成に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、事業所としての現況や活動報告を中心に参加者(家族、行政、民生委員、実習受け入れ学校の教員、駐在所など)との意見交換を行っている。	「かたろう会」とネーミングされた会議には、引き続き地域代表者の協力が得られている。質問に答える形で駐在所員が震災後の道路復旧の現状や、防犯について地域の事例をもとに注意を訴え、行政からの報告や法人の取組について評価の声があがっている。また、直近の会議には高校の福祉担当者による実習を通して、生徒の成長が報告されるなど幅広い意見が集約され、有意義な会議である事が議事録に表出している。	充実した会議である事が窺え、今後代表家族以外にも引き続き参加を打診したり、会場が地域交流室であることから、年度初回などにホーム内を見てもらうことも良いと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者に関する各制度担当者への相談、連絡をとって情報交換や連携が図れるように心がけている。	行政との関係性は運営推進会議などでの情報発信によりしっかりと確立されている。介護相談員(2名)による毎月の来所は、第三者によるあらたな情報が、職員の固定観念に一石を投じるなど、入居者支援に反映されている。必要によって保健所に質問に応じてもらうなど運営に活かされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の行動指針に明記し事業所内に掲示している。経験の浅い職員においても勉強会等をとって理解に努めている。	運営推進会議に身体拘束適正化委員会を設置し、勉強会を通してホームの取組を発信している。不適切ケアについて共有する機会や、居室でのポータブルトイレの設置位置が適正化否かなどを、会議内で検討している。センサーマット利用者には家族への説明とケアプランでの確認承諾が得られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待となる行為を行動指針に明記し事業所内に掲示している。また、法令で定めてある行為だけでなく、入居者が不快に思う言葉使いや態度など無いように心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会参加や勉強会においても成年後見制度について取り上げ学んでいる。成年後見制度利用者もおられ、日頃の状況などについて、随時、報告、相談行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に事業所の体制などについてわかりやすいように資料を用いて事前説明を行っている。また契約後もいつでも相談を受け付け説明できる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に意見を言いやすい雰囲気づくりや対応を心がけ、意見や要望は申し送りノートで周知したり会議で話し合い早めの対応改善に努めている。	職員は入居者の意見や要望をマンツーマンの会話や、入浴時に家族の話や昔話をしながら聞き取り、支援に反映させている。家族の意見は面会時などに入居者の日々の様子を伝えながら、聞き取っているが、小さな意見も苦情として捉え、ノートに管理しながらその都度対応策を検討して、説明を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善について意見や提案を前もってつり月1回の会議時に話し合いを行っている。開設時より取り入れている、まずは、やってみようを基本とし働きやすい職場づくりに努めている。	会議前に職員の意見や要望を前もって収集することで、業務改善や処遇改善に向けた課題を明確にし、意見の出しやすい工夫がおこなわれている。職員の資格取得について、シフトの調整を含め、法人全体で後押しをしている。今年度リフレッシュ休暇を導入し、3連休の取得は職員の余暇活動に活かされたようである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個々の経験や能力、得意分野を活かし役割分担することで責任感や、やりがい、意欲向上に努めている。担当を固定化することで安定した業務が継続できる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務上必要とされる資格取得や、研修会などへの参加支援により、スキルアップ、ケアの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な地区連絡会の勉強会や法人内の研修会に参加し意見交換や交流を行い連携を図っている。法人内のグループホームとは日常的に連絡をとり相談することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して入居していただけるよう本人と面談し心身の状態や要望などを聞き把握することで関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事業所内の見学や事業所の役割について説明し、面談の中でご家族の要望や不安に思っていることなどを把握し関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や入居待ちの方々の支援として、現在の状態やこれまでのサービス利用状況などを把握し、必要とするサービスや他の事業所を紹介したりアドバイスすることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を営む上で昔からされてきた家事仕事などを役割分担しスタッフと協力して行っている。人生の上では先輩であり、アドバイスいただくこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の要望や状況をご家族にもお伝えし情報を共有することでともに支える関係づくりに努めている。家族参加型の行事なども企画し、ご家族と一緒に過ごされる時間も大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の人や場所、関係性を大事にし、継続して関係が保たれるようにお連れしたり、ご家族へ依頼することもある。入居者同士の顔馴染みの関係性も考慮し支援している。	入居者が慣れ親しんだ神社での花見や、地元の敬老会を心待ちにしていた入居者が、当日化粧をして出かけられるなど、これまでの暮らし方を入居後も継続できるよう支えている。居室のベッドの向きにも入居者の馴染みがあり、職員が良かれと向きを変えたことで、「元に戻してほしい」と要望があるなど、こだわりの生活にも応じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活を安心して穏やかに過ごしていただけるよう利用者同士の相性や性格なども考慮し環境を整え、スタッフが間に入り橋渡しをすることで孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所や医療機関への転居および入院になっても、新たな環境での生活が円滑に送れるように、その方の状態や情報を伝え、法人全体で連携し支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成時には必ず本人の意向など確認している。困難な場合は、表情、生活歴などから思いをくみとり、日頃の関わりの中なかでも意向の把握に努めている。介護相談員の利用も行っている。	普段の入居者とのかかわりから思いを引き出し、表現困難な方へは、ホームでの生活の様子や、家族からの情報をもとに本人本位となるよう検討している。職員は介護相談員から寄せられる情報にも大事なヒントがあるとして、内容を共有し支援に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、入居以前に利用していたサービス提供事業所や医療機関からの情報を踏まえ、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各種日誌や申し送りを活用し状態把握の共有化、観察に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に入居者、家族の意向や要望を確認し、計画書へ反映させている。ケア会議においてスタッフの意見の反映、情報を共有し把握に努めている。	職員を入居者の担当制として、入居者の声をケア会議にあげながらプラン内容を検討している。家族へは介護計画作成に伴う意見・要望書を送付し、家族の意向をプランに反映させている。入居間もない方のアセスメントから、生活のリズムを整え居室やトイレなどの位置の理解や、家族・知人の面会を依頼しながら、ホーム生活に徐々に慣れてもらうような内容を盛り込んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス計画書にもとづいて、日々の生活の様子など記録し計画書の見直しに活かしている。また情報を共有しケアの質の向上に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各種制度の申請や手続き、後見人との連携など。ご家族から送迎依頼あり外出支援。入院時には、必要物品の準備、洗濯、面会など行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民との交流の場を設けたり、関係性が継続できるように努めている。地域のボランティアによる恒例の行事もあり、楽しみにされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に訪問診療を受けられている。体調に変化があった際などには、主治医へ連絡し指示受けもできる。以前からのかかりつけ医の変更による協力医療機関との連絡や調整など。	本人・家族の希望により主に協力医療機関による週2回の訪問診療を支援している。専門医については現在オンライン診療が行われている。歯科治療は、訪問と、歯科衛生士への相談(うがい困難な方への対応など)を行い、適切なアドバイスを受けている。殆ど自歯を持たれている方に、そのままの生活できるよう、家族と相談の後、現在自歯の口腔ケアが訪問によって行われている。インフルエンザをはじめ、感染症については、主治医と十分連携を図り、入居者や職員の健康管理が徹底されている。	職員は毎日のバイタルチェックや日頃の関りから異常の早期発見に努め、家族と健康状態を共有しながら、適切な医療の支援に努めている。継続した取組に期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタル測定実施し、状態観察を行い記録することで情報を共有している。日頃と変わった様子があれば看護師に相談し病院受診を検討したり、迅速に対応することを心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や、入院中には定期的にスタッフが面会に行ったり、電話連絡により病状や状況を把握している。個別のケアや関わり方についてなど病院スタッフへ伝えることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全入居者を対象として、終末期医療、介護の支援について、家族等の意向を確認しながら主治医と連携がとれる体制を整えている。聞き取りの期間を設けず、必要に応じて、再度意向の確認をすることもある。	ホームの方針としては、継続した医療が必要でなければ最終まで支援することとしており、状態に応じて意向を確認している。事前指定書についても、介護度が高くなされた場合など、再度家族に説明を行い、新たな指定書を作成している。職員は家族の相談には、不安を持たれることがないように丁寧に応じており、より良い支援ができる様申し添えている。家族の中には同館内にある特養への申し込みをされている方もおられる。	今後も日頃の関りを大切にケアの継続に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えた勉強会などを行い、職員の知識や実践力を身につけ適切な対応ができるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練や非常食訓練など実施し、もしもの時に備えている。運営推進会議で入居者状況など説明し、地域、行政との協力関係も築いている。	今年度は発電機を使用した自主訓練を実施しており、3月に総合訓練を予定している。運営推進会議の中でも、地域代表者より消火栓を使って訓練を行っても構わない事など言葉を受けている。また、消防団にはこれまでホーム内を見てもらう機会を設けている。災害備蓄は倉庫にリストと共に管理しており、非常食訓練の後、職員も実際の備蓄倉庫を確認している。火災については火を出さないことが一番であり、台所やコンセントの埃チェック、建物周辺に燃えるものを置かないなど意識を持って取り組んでいる。	立地上阿蘇の噴火や数年前の大雨、地震等の災害も経験していることから、今後も自然災害についても対応策や被害を風化させない様な取組に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生において先輩であることを忘れずに敬うこと、人として尊重し何事にも了承を得ることを基本としている。排泄時プライドを傷つけないように配慮したり、入浴の際には、本人の要望に沿った対応をしている。	入居者を人生の先輩として言葉使いや対応など、尊厳に配慮しながら笑顔を忘れない対応を全職員間で共有している。呼称は苗字にさん付けとしているが、同姓の方に対しては、家族の了解を得、下の名でも対応している。誕生日はその方の節目でもあり全体やユニットでも祝っている。「おしゃれを楽しむ会」を設け、メイクや髪を整え好みのおしゃれを支援している。	居室のポータブルトイレは排泄する場所であることから、頭より足元のほうに置くことや、長く使用しないのであれば、別の場所で保管している。細やかなプライバシーなどへの配慮を継続していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	受容的な対応、話しやすいような雰囲気や明るい表情で関わりを持つなど心掛けている。各担当を配置することでうまく伝えられない思いなどを把握したり代弁することもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内の日課を基本とし生活リズムを整えつつも、本人の体調や希望を伺い、配慮しながら過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人に合わせた身だしなみや整髪の要望などに沿って対応している。行きつけの美容室がある方は、ご家族の協力のもと継続して通われている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備を一緒にいき、個々の能力を活かせるように支援している。誕生食では好みの物や行事食では季節を感じられる献立が提供され喜ばれている。	入居者にとって食事は大きな楽しみであることを十分理解し、法人栄養士による献立も季節を感じるものや郷土料理、誕生祝の希望メニューなど様々な工夫がおこなわれている。訪問当日も郷土料理の日であり、高菜めしやだご汁が食卓に並び、阿蘇ならではの味を楽しまれていた。職員も同じものを摂ることで思いを共有し、入居者の声を引き出している。食形態も個々に応じて提供し、こぼしがちな方には、エプロンに代わり首周りに負担のない、洋服を再利用した手作りのケープを使用してもらうなど、職員の工夫が見られた。	同建物内の特養施設と連携を図り、開催される「にぎりずしの日」は、職員の特技やアイデアを生かし、板前スタイルやオーダー票も準備されている。夏場のソーメン流しなども好評であり、継続した取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定や血液検査など、体調面を配慮しながら、栄養士に相談し食事内容の見直しなど行っている。水分摂取量が少ない方は、ご家族へ相談し好みの飲み物を持参していただき水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し個々の口腔内に応じた口腔ケア用品を使用している。又、週1回の訪問歯科診療時に口腔内の清掃について指導・助言を受け清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに個々の排泄時間を把握し、排泄のサインも見逃さないように声掛け、誘導を行っている。排泄習慣を確立することで失禁なく気持ち良く過ごせるように支援している。	チェック表で把握した個々のパターンを共有し、声かけ・誘導や、自立の方が継続できるようトイレ内の環境を整えている。入居時はリハビリパンツであった方が、布パンツに移行された例もある。日中はトイレでの排泄支援を基本としているが、トイレでの排泄がきつくなる方にも考慮して、対応している。ポータブルトイレについては夜間のみでの使用と、排便習慣をつけるために日中も使用される方もおられる。ポータブルトイレは居室での使用であり、毎朝ハイター消毒など清潔に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をもとに排便時間やパターンを把握しトイレ誘導や、腹部マッサージを実施している。適度な運動や水分補給、下剤の調整を行い排便習慣の確立に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の好まれる環境や時間帯を考慮し、その日の体調を伺いながら実施している。冬至には、ゆず風呂を楽しんでいただいたり、湯船で一緒に歌うなど、入浴が楽しい場になるよう雰囲気づくりにも努めている。	週2回マンツーマンでゆっくりとした入浴支援に取り組んでいる。一般浴と機械浴が備わったユニットがあり、身体状況に応じてそれぞれの浴槽を使用しているが、機械浴の支援が増えている現状である。冬至の時期は職員が持参した柚子を使用し、1週間ほど「柚子湯週間」として実施しており、日頃入浴拒否のある方も、スムーズに入浴されるなど、変わり湯の効果が窺える。	柚子湯は好評のようであり、それ以外にも入居者の好まれるような変わり湯支援について検討されることを期待したい。脱衣所は清潔に管理されており、シェーバーについては安全面に配慮した管理を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホームでの日課を基本とし個々の要望も取り入れながら生活のリズムを整えている。体操やレクにて適度な運動により夜の安眠につなげている。夜間は入居者個々の希望に合わせて保温への配慮なども行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書や申し送りノートにて理解に努め、内服変更時はスタッフ全員に周知し状態観察の記録を行っている。また、薬に関する相談が随時できるように主治医及び調剤薬局との連携にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、身体機能などに考慮しながら日々の生活の中で役割を持つことで生きがいとなり、充実できるよう支援している。入居者の要望により髪染めなど身だしなみへの支援を行い満足へ繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換や、季節を感じていただけることを目的とした外出行事を計画し、ご家族もお誘いし実施している。個々の要望による外出や、入居後も親族との行事への参加が継続できるよう、ご家族と連携した外出支援も行っている。	季節を感じながら敷地内の散歩を楽しんでおり、寒い時期も職員へ「服ば着てきなせ！一緒に行こう～！」と要望を出されている。今年度は家族参加型の外出として、地域の物産館施設(あそ望の郷)でおやつを食べるなど楽しいひと時を過ごされている。家族より法事への外出で、車の送迎について相談を受けた際は、職員が付き添い出席が叶っている。また、地区の敬老会に呼ばれて参加される方もおられる。	家族参加型の外出では、現地集会で参加を呼びかけ3回に分けて実施し、全入居者の外出が実現している。今後も地域や家族の協力を得ながら入居者が戸外に出る機会を支援いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて所持していただき自己管理が難しい方は鍵付きの貴重品入れにて保管し、おこづかい帳にて管理している。買い物へ行くことや、敷地内の自販機で飲み物を購入するのを楽しみとされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じてご家族へ連絡されスタッフが電話の取り次ぎやうまく伝えられない時には、思いを代弁することもある。毎年、写真付きの年賀状を出しており、担当職員と相談しながら一緒に作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような飾り物や花などを飾り明るく過ごしやすい空間づくりに努めている。又、自宅にいるような家庭的な生活環境や、自分の愛用品を使用していただき、くつろげる環境、居場所づくりを心掛けている。	ホームの玄関前やそれぞれのユニット内は、飾り物や置物、草花など華美にならず季節感のある空間になっている。また、洗面台をはじめ共用空間は手入れが行き届き、開設からの年月が感じられず、来訪者にも居心地の良さにつながっている。日中はリビング食堂で過ごされる方が多く、ソファの位置も入居者の状況などに応じて、その都度検討している。寛ぎやすいリビングであり、夕食後も8時半ほどまでテレビを見ることを日課とされる方もおられる。	一人ひとりの入居者に合わせ、職員がチームワークで業務にあたる光景も大切な環境となっている。変わらぬ姿勢に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係性や相性に配慮しながら、一人一人が孤立することがないように支援している。リビングにはソファを配置し団らんの場所となるような環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真を飾ったり、自宅での愛用品の家具などを取り入れながら、自分の住まいと思ってもらえるよう居心地の良い生環境づくりに努めている。又、安心してゆっくり過ごしていただけるよう支援している。	「何を持ってきたらいいですか!？」と尋ねられる家族も多く、入居の際には本人の安心されるものや馴染みの品などの説明と、わかりやすい他の方の部屋の紹介もおこなっている。居室にはそれぞれ趣の異なる暖簾が家族によって下げられ、目印にもなっている。愛用していた家具、家族の思いが伝わる写真や手紙、テレビを持ち込まれた方の中には10時程まで視聴し就寝される方もおられるなど、自分の部屋の時間を楽しまれている。	ドアから入る人の顔が見えるようなベッドの向きを要望される方への対応や、タンスへの収納の仕方も統一し、担当職員が変更しても戸惑うことがないようにするなど細やかな取組をしている。今後も家族の協力や職員のアイデアを生かした居室環境に継続して取り組まれることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動時などに障害物となる物や危険リスクを常に考え、自立と安全性に配慮した環境づくりに努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391400068		
法人名	社会福祉法人 順和会		
事業所名	グループホーム ひのおか由紀の里 根子岳ユニット		
所在地	熊本県阿蘇市赤水無田ノ上1894番地1		
自己評価作成日	令和2年1月15日	評価結果市町村受理日	令和2年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成32年2月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

鉄鉱石の鉱山があったことから「赤水」という地名がつけられたこの地にグループホーム由紀の里は立地しております。阿蘇五岳を展望する閑静な環境で、建物周辺には田畑があり田植えや稲刈りなどの風景を間近で見ることができたり、用水路には魚が泳いでいたり自然に囲まれた住みよい環境です。医療面に関しては近隣に協力医療機関があり、普段の健康管理や緊急時の体制など柔軟な対応ができる環境です。開設より9年目を迎え、入居者の方も加齢などにより身体的な機能も低下しておりますが、入居者の皆さんの状態を把握しながら、その人に必要とされる支援に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時にスタッフで作上げた理念をもとに、日々の生活支援の指針としている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設以来、毎年恒例になってきている地域行事やボランティアの来館もあり交流を通して関係づくりに努めている。又、入居後も関係性の継続の機会をつくっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や広報により、取り組みや活動、役割の説明を行うことや実習生の受け入れにより、認知症ケアの実践や考え方を通して人材育成に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、事業所としての現況や活動報告を中心に参加者(家族、行政、民生委員、実習受け入れ学校の教員、駐在所など)との意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者に関する各制度担当者への相談、連絡をとおして情報交換や連携が図れるように心がけている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の行動指針に明記し事業所内に掲示している。経験の浅い職員においても勉強会等をとおして理解に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待となる行為を行動指針に明記し事業所内に掲示している。また、法令で定めてある行為だけでなく、入居者が不快に思う言葉使いや態度など無いように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会参加や勉強会においても成年後見制度について取り上げ学んでいる。成年後見制度利用者もおられ、日頃の状況などについて、随時、報告、相談行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に事業所の体制などについてわかりやすいように資料を用いて事前説明を行っている。また契約後もいつでも相談を受け付け説明できる体制を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に意見を言いやすい雰囲気づくりや対応を心がけ、意見や要望は申し送りノートで周知したり会議で話し合い早めの対応改善に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善について意見や提案を前もってつり月1回の会議時に話し合いを行っている。開設時より取り入れている、まずは、やってみようを基本とし働きやすい職場づくりに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個々の経験や能力、得意分野を活かし役割分担することで責任感や、やりがい、意欲向上に努めている。担当を固定化することで安定した業務が継続できる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務上必要とされる資格取得や、研修会などへの参加支援により、スキルアップ、ケアの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な地区連絡会の勉強会や法人内の研修会に参加し意見交換や交流を行い連携を図っている。法人内のグループホームとは日常的に連絡をとり相談することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して入居していただけるよう本人と面談し心身の状態や要望などを聞き把握することで関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事業所内の見学や事業所の役割について説明し、面談の中でご家族の要望や不安に思っていることなどを把握し関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や入居待ちの方々の支援として、現在の状態やこれまでのサービス利用状況などを把握し、必要とするサービスや他の事業所を紹介したりアドバイスすることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を営む上で昔からされてきた家事仕事などを役割分担しスタッフと協力して行っている。人生の上では先輩であり、アドバイスいただくこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の要望や状況をご家族にもお伝えし情報を共有することでともに支える関係づくりに努めている。家族参加型の行事なども企画し、ご家族と一緒に過ごされる時間も大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の人や場所、関係性を大事にし、継続して関係が保たれるようお連れしたり、ご家族へ依頼することもある。入居者同士の顔馴染みの関係性も考慮し支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活を安心して穏やかに過ごしていただけるよう利用者同士の相性や性格なども考慮し環境を整え、スタッフが間に入り橋渡しをすることで孤立しないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所や医療機関への転居および入院になっても、新たな環境での生活が円滑に送れるように、その方の状態や情報を伝え、法人全体で連携し支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成時には必ず本人の意向など確認している。困難な場合は、表情、生活歴などから思いをくみとり、日頃の関わりの中なかでも意向の把握に努めている。介護相談員の利用も行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、入居以前に利用していたサービス提供事業所や医療機関からの情報を踏まえ、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各種日誌や申し送りを活用し状態把握の共有化、観察に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に入居者、家族の意向や要望を確認し、計画書へ反映させている。ケア会議においてスタッフの意見の反映、情報を共有し把握に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス計画書にもとづいて、日々の生活の様子など記録し計画書の見直しに活かしている。また情報を共有しケアの質の向上に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各種制度の申請や手続き、後見人との連携など。ご家族から送迎依頼あり外出支援。入院時には、必要物品の準備、洗濯、面会など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民との交流の場を設けたり、関係性が継続できるように努めている。地域のボランティアによる恒例の行事もあり、楽しみにされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に訪問診療を受けられている。体調に変化があった際などには、主治医へ連絡し指示受けもできる。以前からのかかりつけ医の変更による協力医療機関との連絡や調整など。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタル測定実施し、状態観察を行い記録することで情報を共有している。日頃と変わった様子があれば看護師に相談し病院受診を検討したり、迅速に対応することを心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や、入院中には定期的にスタッフが面会に行ったり、電話連絡により病状や状況を把握している。個別のケアや関わり方についてなど病院スタッフへ伝えることもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全入居者を対象として、終末期医療、介護の支援について、家族等の意向を確認しながら主治医と連携がとれる体制を整えている。聞き取りの期間を設けず、必要に応じて、再度意向の確認をすることもある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えた勉強会など行い、職員の知識や実践力を身につけ適切な対応ができるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練や非常食訓練など実施し、もしもの時に備えている。運営推進会議で入居者状況など説明し、地域、行政との協力関係も築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生において先輩であることを忘れずに敬うこと、人として尊重し何事にも了承を得ることを基本としている。排泄時プライドを傷つけないように配慮したり、入浴の際には、本人の要望に沿った対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	受容的な対応、話しやすいような雰囲気や明るい表情で関わりを持つなど心掛けている。各担当を配置することでうまく伝えられない思いなどを把握したり代弁することもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内の日課を基本とし生活リズムを整えつつも、本人の体調や希望を伺い、配慮しながら過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人に合わせた身だしなみや整髪の要望などに沿って対応している。行きつけの美容室がある方は、ご家族の協力のもと継続して通われている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備を一緒に行い、個々の能力を活かせるように支援している。誕生食では好みの物や行事食では季節を感じられる献立が提供され喜ばれている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定や血液検査など、体調面を配慮しながら、栄養士に相談し食事内容の見直しなど行っている。水分摂取量が少ない方は、ご家族へ相談し好みの飲み物を持参していただき水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し個々の口腔内に応じた口腔ケア用品を使用している。又、週1回の訪問歯科診療時に口腔内の清掃について指導・助言を受け清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに個々の排泄時間を把握し、排泄のサインも見逃さないように声掛け、誘導を行っている。排泄習慣を確立することで失禁なく気持ち良く過ごせるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をもとに排便時間やパターンを把握しトイレ誘導や、腹部マッサージを実施している。適度な運動や水分補給、下剤の調整を行い排便習慣の確立に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の好まれる環境や時間帯を考慮し、その日の体調を伺いながら実施している。冬至には、ゆず風呂を楽しんでいただいたり、湯船で一緒に歌うなど、入浴が楽しい場になるよう雰囲気づくりにも努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホームでの日課を基本とし個々の要望も取り入れながら生活のリズムを整えている。体操やレクにて適度な運動により夜の安眠につなげている。夜間は入居者個々の希望に合わせて保温への配慮なども行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書や申し送りノートにて理解に努め、内服変更時はスタッフ全員に周知し状態観察の記録を行っている。また、薬に関する相談が随時できるように主治医及び調剤薬局との連携にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、身体機能などに考慮しながら日々の生活の中で役割を持つことで生きがいとなり、充実できるよう支援している。入居者の要望により髪染めなど身だしなみへの支援を行い満足へ繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換や、季節を感じていただけることを目的とした外出行事を計画し、ご家族もお誘いし実施している。個々の要望による外出や、入居後も親族との行事への参加が継続できるよう、ご家族と連携した外出支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて所持していただき自己管理が難しい方は鍵付きの貴重品入れにて保管し、おこづかい帳にて管理している。買い物へ行くことや、敷地内の自販機で飲み物を購入するのを楽しみとされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じてご家族へ連絡されスタッフが電話の取り次ぎやうまく伝えられない時には、思いを代弁することもある。毎年、写真付きの年賀状を出しており、担当職員と相談しながら一緒に作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような飾り物や花などを飾り明るく過ごしやすい空間づくりに努めている。又、自宅にいるような家庭的な生活環境や、自分の愛用品を使用していただき、くつろげる環境、居場所づくりを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係性や相性に配慮しながら、一人一人が孤立することがないように支援している。リビングにはソファを配置し団らんの場所となるような環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真を飾ったり、自宅での愛用品の家具などを取り入れながら、自分の住まいと思ってもらえるよう居心地の良い生環境づくりに努めている。又、安心してゆっくり過ごしていただけるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動時などに障害物となる物や危険リスクを常に考え、自立と安全性に配慮した環境づくりに努めている。		